



岡山富夫 町長

我が国の経済状況は緩やかな回復基調にありますが、地方においてはその変化を実感できる状況とは言えず、経済の好循環に結びつくり、町としても各種施策の必要性を認識していねといります。この数年実施してきた学校耐震改修事業など公共投資に伴う償還費が高水準にあるなど、さまざま課題に対応するため継続的な財政需要が想定され、今後も中長期的な見通しのもと自治体経営の安定化に努めなければなりません。

本年度予算については、私がめざしている「町民の皆さんのが安心して住み続けられるまちづくり」を念頭に、これまでの課題への対応をはじめ、それぞれの事業実施に対し緊急性や優先性などを十分考慮するとともに、今後見込まれる財政需要に対する財源確保の状況を見極めながら、予算編成を行いました。

平成30年度 町政執行方針

人や地域とつながりのある暮らし

農業が町の基幹産業として今後も持続発展できるよう、最終年度を迎える「第7次農業振興計画」「農業・農村実践プラン」に沿った施策・事業を着実に進めるとともに、この間の成果・課題などを検証し「第8次農業振興計画」の策定に取り組みます。

一番身近な消費者である町民の皆さんへ収穫祭などの地元農畜産物の提供を通して信頼性や安心感を高め、健康づくりや食育の推進を図ることで農業や農産物への理解を深めていただき、生産者が取り組む活動についても支援を行っていきます。

穏やかに安心して過ごせる暮らし

本年度から第7期「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」が始まるところから、第6期の「住み慣れた地域で支えあい、自分らしく安心して暮らし続ける地域社会の実現」の理念を継承し、団塊の世代が後期高齢を迎える2025年を目指した「地域包括ケアシステムの構築」をめざします。

国民健康保険事業は増加する医療費負担により厳しい状況にあります。本年度から北海道と市町村が保険者として共同運営を行い、これまでの脆弱（ぜいじやく）な財政基盤という国保制度の構造的な課題の解決に努めます。

快適で楽しく潤いある暮らし

地域の活力創生を具現化するため、第6次総合計画での位置付けについて準備を進めている複合型拠点施設については、本町の潜在力や地域資源が最大限に生かされるよう施設に配置すべき機能や規模、有効な整備手法の検討など、役場内の協議はもとより町民の皆さんとの意見集約に備え、整備に向けた基礎調査を進めます。

昨年、内閣府からの認定を受けた地域再生計画に基づく「活火山の恵みと脅威を活力に～『十勝岳』魅力再発見プロジェクト～」の推進では、本年1月に設立された「『泥流地帯』映画化を進める会」を核として、応援をいただける方々の輪を広げながらさまざまな活動を展開し、映画化の実現に向けた環境づくりに取り組んでいます。

十勝岳ジオパーク（美瑛・上富良野エリア）構想については昨年度、認定が見送られたことから、審査で示された課題の検証を十勝岳ジオパーク推進協議会を中心に進め、ボトムアップ型の住民主体による活動に重点を置き、早期の認定をめざし一層の取り組み強化を図っていきます。



昨年7月の三段山登山会

地域の宝を守り・育み・活用できる暮らし

誇りと責任・役割を分かちあえる暮らし

平成31年度を初年度として10年間、町政の基本となる第6次総合計画は昨年度策定に着手し、本年第2回町議会定例会に基本構想を上程します。総合計画審議会、アンケートの結果、パブリックコメントや町民の皆さんとの直接対話による意見・意向の把握と計画への反映に努め、本年中の完了に向けて作業を進めます。

平成30年度予算の内容は、別冊「知っておきたいことしのしごと」をご覧ください。

学校を核とした地域づくり、地域とともににある学校への転換が求められる中、「人と人との支え合ひ」「ふれあいを愛する心」「子どもの主体的な行動」「優しく人を思いやる心」は本町の教育がめざす原点と考えます。

このような認識のもと、本年度最終年次を迎える「上富良野町教育振興基本計画」「第8次社会教育中期計画」「上富良野町教育大綱」の重点施策を積極的に推進し、明るく、笑顔があふれる教育行政を取り組んでいきます。

また、総合教育会議を通して町長と教育委員会が思いを共有し、一体感とスピード感を大切に、平成31年度からの新たな上富良野町教育振興基本計画策定に向け現計画の評価と見直しを確実に行い、教育に携わるすべての関係者がそれぞれの役割と責務を自覚し、教育行政の推進に努めます。

服部久和 教育長

平成30年度 教育行政執行方針

学校教育の推進



地産地消についての総合学習(上富良野小)

上じなぬことを目標に、児童生徒の学力向上に取り組んでいきます。

認定こども園や保育園からのスマート接続、小1プロフレム(※)への対応など、児童一人ひとりへの細やかな支援を図るため「学習支援員」を上富良野小学校に2人配置します。

全国的にいじめや不登校、虐待、自殺、体罰、ネットトラブルなどの問題が依然として後を絶たない現状があることから、児童・生徒や保護者からの相談に電話で応じる「かみふらのあんしんライン」に加え、新たに郵便での相談にも応じる「子どものいじりターザー」の取り組みを進めます。

教育環境の整備では上富良野中学校の外構整備と体育館改修、上富良野西小学校教育用パソコンの更新、東中小学校のトイレ洋式化改修などを実行ほか、英語・外国語活動の充実に向けた教材備品の拡充を図ります。

※小1プロフレム：新1年生が集団行動できない、授業中座つていられない、先生の話を聞かないなど学校生活になじめない状態が続くこと

地域づくりをめざす生涯学習の推進」に向けた取り組みを進めます。

今年度最終年次を迎える「第8次社会教育中期計画」に掲げる6領域8分野16項目の施策を一層推進し、家庭、学校、地域社会、それそれが持つ教育機能の充実と連携・融合を進めます。

生涯学習活動の推進として、マイプラン・マイスタイル講座など自主的な学習活動への支援と公民館講座の開設をはじめ、女性学級による学習機会の提供に取り組むほか、今年度30周年を迎える女性連絡協議会の活動に支援を行います。

社会教育の基盤整備では社会教育活動の核となる施設として草分分館(防災センター)の外壁・屋根塗装、社会教育総合センターアリーナ側のトイレ改修と屋上防水工事などを実施し、安全で安心な環境づくりに努めます。

学校を核とした地域づくり、地域とともにあるいはある学校への転換が求められる中、「人と人との支え合ひ」「ふれあいを愛する心」「子どもの主体的な行動」「優しく人を思いやる心」は本町の教育がめざす原点と考えます。

このような認識のもと、本年度最終年次を迎える「上富良野町教育振興基本計画」「第8次社会教育中期計画」「上富良野町教育大綱」の重点施策を積極的に推進し、明るく、笑顔があふれる教育行政を取り組んでいきます。

また、総合教育会議を通して町長と教育委員会が思いを共有し、一体感とスピード感を大切に、平成31年度からの新たな上富良野町教育振興基本計画策定に向け現計画の評価と見直しを確実に行い、教育に携わるすべての関係者がそれぞれの役割と責務を自覚し、教育行政の推進に努めます。

服部久和 教育長

平成30年度 教育行政執行方針

学校教育の推進



地産地消についての総合学習(上富良野小)

上じなぬことを目標に、児童生徒の学力向上に取り組んでいきます。

認定こども園や保育園からのスマート接続、小1プロフレム(※)への対応など、児童一人ひとりへの細やかな支援を図るため「学習支援員」を上富良野小学校に2人配置します。

全国的にいじめや不登校、虐待、自殺、体罰、ネットトラブルなどの問題が依然として後を絶たない現状があることから、児童・生徒や保護者からの相談に電話で応じる「かみふらのあんしんライン」に加え、新たに郵便での相談にも応じる「子どものいじりターザー」の取り組みを進めます。

教育環境の整備では上富良野中学校の外構整備と体育館改修、上富良野西小学校教育用パソコンの更新、東中小学校のトイレ洋式化改修などを実行ほか、英語・外国語活動の充実に向けた教材備品の拡充を図ります。

※小1プロフレム：新1年生が集団行動できない、授業中座つていられない、先生の話を聞かないなど学校生活になじめない状態が続くこと

地域づくりをめざす生涯学習の推進」に向けた取り組みを進めます。

今年度最終年次を迎える「第8次社会教育中期計画」に掲げる6領域8分野16項目の施策を一層推進し、家庭、学校、地域社会、それそれが持つ教育機能の充実と連携・融合を進めます。

生涯学習活動の推進として、マイプラン・マイスタイル講座など自主的な学習活動への支援と公民館講座の開設をはじめ、女性学級による学習機会の提供に取り組むほか、今年度30周年を迎える女性連絡協議会の活動に支援を行います。

社会教育の基盤整備では社会教育活動の核となる施設として草分分館(防災センター)の外壁・屋根塗装、社会教育総合センターアリーナ側のトイレ改修と屋上防水工事などを実施し、安全で安心な環境づくりに努めます。